

目次

- ・ オピニオン...「何より大事なものはFD」(1)
- ・ センターニュース...「第3回FDワークショップ」他(2)
- ・ 授業のティップス...「教室の雰囲気と和らげるには」(5)
- ・ センター運営委員会の動き...(6)
- ・ センター日誌...(7)
- ・ 授業に役立つ道具箱...「シラバスの作り方を学ぶ」(7)
- ・ 学生の声...「共通教育のレベルが低いのでは？」(7)
- ・ センター掲示板...(8)

お知らせ 「大学教育総合センターだより」は、第4号より「IECレポート」に名称・内容変更しました。

オピニオン

何より大事なものはFD

そしてシステムを動かすこと

大学教育総合センター センター長 西頭徳三

大学教育総合センター(以下、大教センター)の前身の大学教育研究実践センター長時代から、2001年の大教センターの立ち上げ、そして省令化された今年度までを改めて振り返って、何を目指してきたのかを教えてください。

当時の問題は大きく二つでした。一つは、「共通教育の責任ある実施体制の欠如」、もう一つは「共通教育の負担問題」、いわゆる「8コマ縛り問題」です。こうした問題から、自由な共通教育のカリキュラムが組めず、共通教育の質が低下していました。学生たちの不満も高まっていました。前者については、企画・実施部門とFD実施部門、コミュニケーション英語を行う英語教育センターと一体化させて組織を立ち上げ、動かしてきました。文部科学省にもこの体制しかないと主張してきました。今は全国的に注目される体制となっています。また、後者の問題については、学内で粘り強い議論を重ね、医学部からも協力を得て、解消され現在に至っています。



大教センターが現在抱える課題は何だと考えていますか？

第一に、共通教育企画・実施部ですが、共通教育は実施されていますが、質的向上に結びつくシステムができていません。教育システム開発部の研究・実践と連携する必要があります。次に、英語教育センターですが、コミュニケーション英語実践の評判が良いことは事実ですが、Reading、Writingも含めた総合的な英語力を身につける教育プログラムの開

発が必要です。本学の学部教育、大学院教育のレベルアップにつながる多様で高度な内容を考える必要があります。最後に、システム開発部ですが、全学出動体制を動かすためには、FDが不可欠です。しかしFDのためのFDは必要ありません。実質的な教育向上につながるFDにするために、改善が必要です。また英語教育センターと協力して教員対象の英語教育や共通教育企画・実施部と協力して、学生の評価をカリキュラムに反映させていくなどの取組みが必要となります。3つの部が三位一体で動いていかなければなりません。

愛媛大学の教育全体をどのように変えていきたいですか？

共通教育を中心にして始まった大教センターですが、守備範囲を拡大していく必要があります。就職を含めたキャリア教育や高校生の獲得を含めた入学関係の改革といった分野にも積極的に取り組む必要があります。こうした教育改革を、入学前・入学直後・共通教育・専門教育・大学院教育・卒業という<時間軸>と、学生生活支援・教育・キャリア支援という<空間軸>を交差させて、システムとして構築していく視点が求められています。研究と並んで教育は最重要で緊急の重点課題です。

センターニュース

新入生への教育はこれでバッチリ - 第5回教育実践シンポジウム開催される -



第5回を迎える愛媛大学全学シンポジウムは、9月27日開催の「学術シンポジウム」に続き、10月23日、「教育実践シンポジウム」が下記のプログラムにより開かれました。今回は特徴のある「基礎セミナー」の実施方法・内容について、6学部7件の具体的な取り組みをご紹介します。どの

最後に教育改革を実行する上で必要なことを一言でお願いします。

教育というものは時間がかかるし、本当に難しいことなのです。特にプログラムやシステムを作っても、動かさなければ意味がありません。足りないのは金ではなく、知恵なのです。知恵を使って、システムを動かしていきたいと思います。

（聞き手 佐藤浩章 大学教育総合センター講師）

さいとう・とくそう

農学部教授、副学長(併)、大学教育総合センター長、留学生センター長。1968年3月静岡大学農学部農学科卒業、1970年3月京都大学大学院農学研究科修士課程農林経済学専攻修了、1972年9月京都大学大学院農学研究科博士課程農林経済学専攻中退。

専門分野：農業経済学，農業会計学，水資源管理論

▼ 大学改革に関する教職員の皆さんの意見を掲載します。こちらがインタビューに伺うこともありますが、公募も受け付けております。随時投稿をお待ちしております。送付先は巻末の編集委員までお願いします。

発表もこれまでの実践経験の反省に立ち、「導入教育の在り方」を原点から見直すことにより、新入生に自ら学び考えるきっかけを形成する学習機会として運用していることが印象的でした。

今回は教職員、学生を合わせて約80人と、これまでの教育実践シンポジウムでは最も多い参加者があり、活発な意見交換が行われました。本テーマに対する関心の高さをうかがわせます。本学における基礎セミナーは新しい段階に入りつつあります。なお、当日の発表内容は、ホームページで映像としてご覧いただけるよう準備をしております。

○シンポジウムテーマ「基礎セミナーがもたらしたもの」

○日時 平成14年10月23日(水) 13:00~17:00

○会場 愛媛大学工学部本館大会議室

○発表内容

〈1〉基礎セミナー実践例の紹介とその意義-議論することと新入生研修合宿の活用について-

法学部人文学科 ○山川廣司

〈2〉教育実践力の系統的な育成を目指した基礎セミナーの試み

教育学部社会科教育 壽卓三 ○加藤寿朗 ○駕原進

〈3〉理学部における基礎セミナーの現状と課題

理学部物質理学科(化学) ○島崎洋次

〈4〉チュートリアル学習形式を取り入れた基礎セミナーの試み

医学部医学科教務委員 基礎セミナー担当 ○小林直人

〈5〉大学生活への適応を助けるために看護学科の熱きプログラム

医学部看護学科 教務委員会 基礎セミナー担当

○野本ひさ 加藤基子 中村慶子

〈6〉基礎セミナー改革の試み

工学部機械工学科 ○猪狩勝寿 村上幸一 八木秀次

〈7〉農学部における基礎セミナーへの新しい取り組み

農学部 教務委員会 ○仁科弘重 高瀬恵次

注) ○は発表者

大学教員だって授業研修!

- 第3回FDワークショップ開催される -



11月1, 2日の2日間、学生祭の休講期間を利用する形で、教育ワークショップが実施されました。FD研修ワークショップとしては3回目になりますが、今回は阿部和厚氏(北海道医療大学教授、北海道大学医学部名誉教授)にスーパーバイザーとしておいていただき、参加者が実際に授業を設計する作業を通して、大学教員としての基礎的知識・スキルを身につけることを研修目的としました。実施要項とスケジュールは以下のとおりです。

2日間、非常にハードなスケジュールでしたが、各グループとも和気あいあいと、しかしきわめて真摯に議論を重ね、最終的に思わずうなりたくなるほ

どレベルの高い授業の設計にこぎつけました。それぞれの詳細は報告書に譲るとして、各グループの労働の成果を下記に示しておきます。あわせてスーパーバイザー、阿部和厚氏の談話を紹介しておきます。「私はこれまでいくつもの大学に呼ばれて同様のワークショップを実施していますが、今回はその中で最良のレベルに達していると評価します。」

○テーマ 「学生参加型授業をつくろう」

○期 日 平成14年11月1日(金) - 2日(土)

○場 所 工学部講義棟(42番講義室がメイン会場、グループ作業用に43番講義室)

○趣 旨

今回のワークショップは、メインテーマを「学生参加型授業をつくろう」とし、参加者が、実際の授業の構想、設計、展開、評価等に関わる一連の過程をグループ作業として実体験し、参加者相互の批判と議論を経てそれに関する実践的力量を身につけてもらうことをねらいとします。これらは、大学教員が持つべき基礎的知識・スキルではありますが、センター教員を含め、きちんと修得している教員は少ないのが現実です。

そこで、今回は、日本の大学におけるFDのパイオニアであり、国内の多くの大学でFDを実践・指導してこられた阿部和厚先生をお迎えし、先生の指導の下、上記内容を学ぶことといたしました。

○スケジュール

<1日目>

ワークショップI 愛媛大学の教育ニーズ

愛媛大学を取り巻く社会の状況、若者・学生の現状を踏まえ、愛媛大学の教育ニーズ(愛媛大学に求められている教育課題)とは何か、それに対して私たち(グループ)は何ができるか、について具体的に考え、まとめ、発表します。これは、のちに、実際の授業を設定するための前提となります。

ワークショップII 講義題目名と目標の設定

WS Iで考察した愛媛大学の教育ニーズを意識しつつ、ここからはそれに応える授業を実際につくっていきます。まず、授業というものの全体構造、

授業目標の性格、シラバスの意義、その書き方等について理解します。それを踏まえて、講義題目名、目標を設定してみます。

ワークショップⅢ 方略の決定

目的・目標を達成するためのかずかずの「方略」、特に授業における「学生参加」の具体的あり方について理解します。

学部間交流 (愛媛大学職員会館)

<2日目>

ワークショップⅣ 評価

ここでは授業の重要な構成要素である「評価」のあり方について理解します。

最終グループ発表

○グループ作業の結果としてできあがった授業名

『社会問題としての遺伝子情報を考える』

(チーム名：ブルーリボン・法文学部)

宇都宮純一・山口和子・藤江啓子・曾我亘由・野崎賢也・諸田龍美・林康次

『コミュニケーションを考える』

(チーム名：くすの木・教育学部)

東慶太郎・花熊暁・渡邊重義・田中雅人・秋山正宏・森貴子・岡部美香

『科学の目』

(チーム名：自由空間・理学部)

木曾和啓・柳重則・井上直樹・柏太郎・飯塚剛・井上雅裕・佐藤康

『からだの気持ち』

(チーム名：しげのぶ・医学部)

伊藤昌春・澄田道博・藤原隆・加納誠・岡田克俊・伊賀上睦見・大西美智恵

『現代社会のサバイバル術』

(チーム名：7/5・工学部)

小野和雄・神野雅文・仁保裕・井原栄治・高橋寛

『森～海&人』

(チーム名：樽味連・農学部)

酒井雅博・森本哲夫・松岡淳・山内聡・小林修・藤原正幸・高木基裕

※シラバスは後日ホームページで紹介予定です。

学生による学生相談窓口がオープン - ピアサポートルームが12月より本格始動 -



学生による学生相談窓口、ピアサポートルームが、12月3日(火)より本格的始動しました。

近年、多様な学生がキャンパスに来ており、学生の相談需要が増加しています。しかし従来の窓口は教職員が対応しており、学生とりわけキャンパスに不慣れな新生にとっては、足を運びにくい現状がありました。そこで、センター広報小委員会が、学生による学生相談窓口を開設することになりました。現在、対応にあたるピアサポーターは、約10名おり、カウンセラーや学内事務職員の下で、研修プログラムを受けています。ピアサポーターは、ESMO(愛媛大学学生メンターズ)のメンバー、またポスター公募により集まった各学部からの学生により構成されています。業務としては、学内相談窓口への斡旋、履修指導補助などを行う予定です。

場所は、共通教育棟本館1階、玄関をいってまっすぐ行き、右手にあります。開室時間は、火曜日から木曜日までの13時より17時30分を予定しておりますが、変更の可能性もあります。詳しくは入口に貼ってあるシフト表をご覧ください。学生生活支援の一環としてお使いください。

連絡先：

ピアサポートルーム 内線 8920

「教室の雰囲気や和らげるには…」

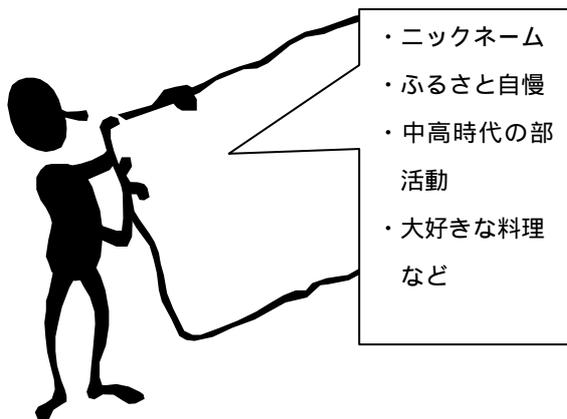
Q. 学生に質問したり、学生同士でディスカッションをさせたりするのですが、なかなか打ち解けた雰囲気になりません。手軽に教室の雰囲気を和らげる方法はないでしょうか？



「アイスブレイキングをしてみましょう」

A. 学生参加型の授業にしようと、一生懸命働きかけているのに、なかなか学生がのってこない。そういうことってありますね。「せっかくこっちが問いかけているのに、何て主体性のない学生なんだ」とイライラしてしまいます。しかし教員がイライラするほど、学生は更に緊張してしまいます。緊張した状況での学習は、効果が低いものです。最近の学生は、他者との人間関係を作るのが苦手な場合が多く、知らない他者と同じ教室にいただけでとても緊張しています。授業で、活発な議論を期待するのであれば、そうした緊張関係を解く必要があります。そんな時に使えるのが、「アイスブレイキング(氷解)」です。ゆるやかな関係を作るウォーミングアップといってもよいでしょう。

最も一般的なのは、「自己紹介」です。隣人が何者かを知ることによって、緊張感は一気に緩和します。大人数の授業でも、前後の人同士で自己紹介をしてもらうことができます。(隣同士は友人の可能性が高いので避ける。) 自己紹介の際に、A4の紙に大きく、自分のニックネーム、



嫌いな食べ物などを書き、皆に見せながら言ってもらおうと、自然と笑いが生じたりします。また、A4の白紙を配布し、10枚程度の名刺を作ってもらい、自分の名刺と他人の名刺を交換しあう「名刺交換ゲーム」も有効です。

また身体を使ったアイスブレイキングも有効です。緊張状態で学生たちの身体は固くなっています。例えば、背伸びをさせる、肩甲骨を回すといったストレッチ運動は心身ともに緩めてくれます。高齢者の場合は、お互いの肩を揉むなども効果的なのですが、最近の学生は見知らぬ人との接触を嫌がりますので注意が必要です。こうした身体のリラックスにより自然に生じる笑いが教室の雰囲気を和らげてくれます。

アイスブレイキングなどをやっている時間的余裕はない、小学生ではないのだからと思われるかもしれませんが、最初に行う10分ほどのウォーミングアップで、残りの時間が有効に使えるのであれば、効率的な作業とも言えます。

また実施上、注意しなければならないのは、作業を指示するあなた自身が楽しげにやるということです。あなた自身の表情が固いと、学生も嫌々ながら作業をすることになります。ゲームだとわりきって、楽しく行うことが大事です。是非、試してみてください。

▼ 大学教員が授業をする上で役立つコツ(ティップス)を伝えます。こんなテーマについて取り上げて欲しいという方は、巻末の編集委員までご連絡ください。

センター運営委員会の動き

▼ 大学教育総合センター運営委員会の中から主要な審議、決定事項を抜粋してお伝えします。(10/11月期)

◆第11回(9月25日開催)◆

(1) 平成15年度共通教育関係授業日程及び授業時間

標記案件について、補講日の設定を含めた原案を確定した。なお、平成16年度からの国立大学法人化(予定)に向けて、授業日程を柔軟に組める制度の確立について、大学教育審議会に検討を依頼することが確認された。

(2) 「中期目標・中期計画」(大学教育総合センター素案)

法人化準備委員会に提出する本件原案を承認した。

(3) 愛媛大学全学教育課程の骨子(中間まとめ)案

かねて継続審議中の本案について、現時点での審議内容が報告され、種々の意見交換が行われ、これらを踏まえて教育改革推進委員会においてさらに検討することとなった。

◆第12回(10月16日開催)◆

(1) 「大学教育総合センター専任教員の選考に関する申合せ」の確定(2) 平成15年度中国・四国地区国立大学間協同授業

当番校である高知大学に対し、メインテーマを「現代社会の倫理」、実施時期を平成15年8月4～7日とする案を希望することとした。なお、本学における担当は教育学部となることが確認された。

(3) 「特色ある教育活動プログラム」(仮称)のワーキンググループの設置、及び「第51回中国・四国地区教養教育研究会」に関する準備会の設置について

上記2つの委員会の設置が承認された。

(4) 英語教育センターの Foreign Lecturers の公募案が承認された。(5) 愛媛大学全学教育課程の骨子(中間まとめ)案について

本件について、先回の議論を踏まえた修正案(「主題別科目」に相当する部分に関する教育改革委員

会委員長私案)が報告され、種々意見交換の後、本私案に沿ってセンター運営委員会の基本的方向をまとめることが認められ、次回、改めて提案することになった。

◆第13回(10月31日開催)◆

(1) 教務システム開発ワーキンググループの設置

平成16年度導入・実施予定の新しい共通教育カリキュラムに対処するため、教務システムの開発のためのワーキンググループを設置することが承認された。

(2) 愛媛大学全学教育課程の骨子(中間まとめ)案

本件について、前回の議論を踏まえた修正案が提出され、意見交換の後、文言を一部修正した上、原案のとおり承認された。なお、今回承認されたのは、いわゆる「主題別科目」にあたる部分のみであり、なお審議対象となっていない共通基礎科目等は、引き続き検討されるものであることが確認された。

(4) 愛媛大学大学評価等情報収集分析室専任教員の配置

学長預かりの教官定員から任用される標記専任教員は、評価情報室の業務を担当するが、大学教育総合センター教育システム開発部に籍をおくことになることについて、説明があり、了承された。

◆第14回(11月13日開催)◆

(1) 平成15年度共通教育科目開講計画

共通教育企画・実施部において9月より立案検討作業が行われていた標記案件について、各部会で作成された原案が、実施委員会、企画委員会の議を経て、本運営委員会に提出された。非常勤講師の任用に関わって一部ペンディングとせざるをえない部分を除き、基本的に了承された。なお、本開講計画について、諸般の事情により微調整が必要な場合が生じた場合は、企画委員会において処理することが併せて了承された。

(3) 愛媛大学全学教育課程の骨子(中間まとめ)案

かねて継続審議中の本案について、現時点での審議内が報告され、種々の意見交換が行われ、これらを踏まえて教育改革推進委員会においてさらに検討することとなった。

11月

- 1日 (FD) 第3回FDワークショップ
 2日 (FD) 第3回FDワークショップ
 6日 (会議) 第15回教育改革推進委員会
 11日 (会議) 共通教育企画・実施部企画委員会

- 13日 (会議) 第14回センター運営委員会
 14日 (会議) 第5回FD委員会
 (訪問) 山形大学副学長他、来学
 18日 (会議) 第8回英語教育センター運営委員会
 21日 (会議) 第3回障害者学習支援委員会
 27日 (会議) 第16回教育改革推進委員会

シリーズ 授業に役立つ工具箱(1)

シラバスの作り方を学べる教材

『成長するティップス先生

～授業デザインのための秘訣集～』



(ISBN4-472-30257-8 玉川大学出版 2001年 1400円)

今回紹介する本書は、名古屋大学高等教育研究センターメンバーによる、授業の秘訣集です。元来はWEB上にて、名古屋大学教員に対するFD一貫として開発された教材でしたが、学外からのアクセスも多く、一般的な内容に改訂し出版の運びになったようです。

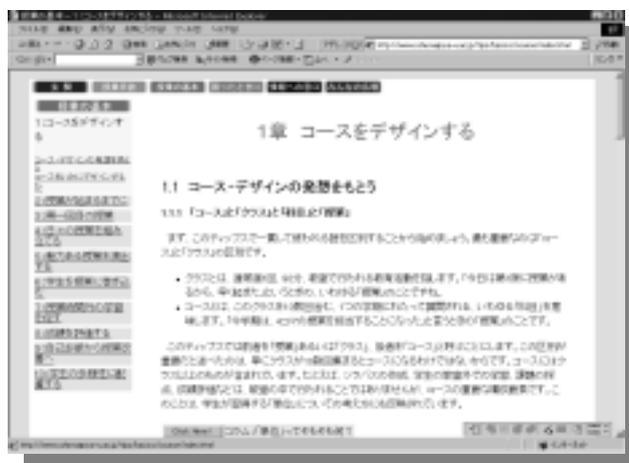
シラバスの作り方、授業の組み立て方、学生指導の方法、評価方法の選び方など、すぐに役立つ内容が豊富な事例とあわせて紹介されています。「気軽に読めるティップスを作る」という開発コンセプトのもと、授業日誌風に書かれているので、これからシラバスを作ってみようと思っっている方も無理なく読み通すことができます。

本書で繰り返し主張されるメッセージは「授業の成功はデザイン力にある」ということです。授業の

巧拙は専門知識の多寡によるものではなく、いかにコース目標と受講者を念頭に置きながら、授業の輪郭や組み立てを表現したシラバスを作れるかにかかっているという主張は重要な指摘です。そして、読み終わった段階で、こうしたデザイン力がついたような気にさせてくれる(?)配慮が様々に見られ、授業実践者をサポートしたいという著者たちの思いが伝わってくる作りとなっています。

尚、WEB上で同内容を閲覧することができます。どうぞお試し下さい。アドレスは以下です。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/>



▼ 大学教員が授業をする上で役立つ書籍、WEB情報を紹介します。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡下さい。

「共通教育の内容が低いではありませんか？」

学生からセンターへのコメント

- ◆「中学生程度の知識があれば…、中学生程度の～を前提に。ここは高校じゃないし、もう前期だけでうんざりしました。」(11月第1週の投函・無記名)
- ◆「受験のときに各教科だいたいやっているのだから中学程度の知識なんてなめてるとしか思えない。それとも学生と教授に認識の差があるのか。『ルネッサンスプラン』だかなんだか知らないけど、大学生に『生きる力』を教えるなんて小中学生じゃあるまい(原文のまま)いらぬ。内容を上げてほしい。」(11月第1週の投函・無記名)

センターから学生へのコメント

コメントありがとうございます。今後もどんどんコメントをお願いしますね。

まずお願いしたいのは、どの科目について言っているのかわからないので、次回は科目、担当教員名をあげてコメントをしてください。それとも全科目についてのコメントですか？次に、担当教員は、科目嫌い、アレルギーをなくすために、こういう言い方をしたかもしれません。教員の発言どおり、中学程度の知識で足りる授業でしたか？

また、学生の高校での履修状況は様々です。例えば、高校で全く化学を学んでいない学生もたくさんいます。その場合、中学程度の知識を前提に授業を進めなければなりません。一方で、あなたのように、すでにその科目を学んでいる学生もいます。シラバスを読んで受講の必要があるかどうかよく考えて履修してください。とは言え、大学ですから高校と同じ内容であってはなりません。テーマは同じでも、内容が深くなっていたり、幅広い内容であったりしている必要がありますね。その場合は、センターから担当教員にコメントもできますので、①に書いたようにコメントしてください。

▼ 学務部教務課(第一学生サービスセンター)前掲示板と共通教育係前に設置された共通教育何でも意見箱に寄

せられたコメントとそれに対するセンター専任教員からのコメントを掲載します。学生の意見とセンターからのコメントは、教務課前掲示板で見ることができます。

センター掲示板

「変動期における大学広報の重要性」シンポジウムが開催されます！

- 大学コンサルタント

佐藤氏による FD / SD 講演会 -

日時：12月10日(火) 15:00～17:00

場所：工学部会議室

18歳人口の激減により、大学広報の環境が大きく変化しています。選ぶ側から選ばれる側に大学の位置づけが変わる中で、「マーケティング」という視座から大学教育全体を捉え直す時代になりました。いかに多くの志願者と入学者を集めるか？また大学の教育・研究方針にマッチした学生・社会人をどのように惹きつけるのか？これからの大学広報は、マーケットの的確な把握、多様なニーズに合わせた質の高い情報提供、インタラクティブな情報交換、などを含め様々な角度からの戦略が必要となっています。講師の佐藤氏は、国内の多数の大学のコンサルティングを行っている大学広報の専門家です。是非、大学の将来に関心のある多くの方々の参加をお待ちしています。

■■■IECレポートNo.4■■■

愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日：2002年12月1日

発行元：愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町3番

TEL 089-927-8904 (代表) FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/index.html>

編集者：愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

中村慶子(医学部) 山本久雄(教育学部)

折本素・松久勝利・◎佐藤浩章(大学教育総合センター)

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員までお願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346